

日本における早期教育の継続要因

富田 紋加

本論文では、早期教育ブームの継続要因を解明する。早期教育は否定されているにも関わらず、なぜ母親たちは自分の子どもに早期教育を受けさせるのかを、現在育児を行う母親の心理と共に述べる。

第1章では早期教育の実態について述べる。第1節では幼児教育の専門家の意見を参考に、本論文での早期教育の操作定義を決定する。第2節では早期教育に対する専門家の意見を、否定と賛成の二つの立場に分けて整理する。第3節は現在も早期教育を推進している三つの幼児教室を紹介する。

第2章では日本で起きた早期教育ブームの歴史を振り返る。第1節では日本の早期教育ブームに影響を与えた海外の既存研究を紹介する。第2節では日本で起こった三大早期教育ブームを、社会的背景と共に説明する。

第3章では早期教育を行う家庭の特徴を考察する。第1節では、時代と共に変化する幼児教育を行う家庭の特徴の変化をまとめる。第2節では早期教育を推進している公文式の講師に、現在の早期教育を行う家庭の特徴について何うヒアリング調査を行う。

第4章では早期教育ブームの継続要因に関する、二つの仮説を立てる。第1節では調査対象者の出現率を確認するために行った、プレ調査についてまとめる。第2節では、既存研究とプレ調査を基に、二つの仮説を立案する。

第5章では二つの仮説の検証するための本調査についてまとめる。第1節では本調査の目的や調査方法などの概要を説明する。第2節では本調査で使用したアンケートの設問の意図を説明する。第3節では本調査の対象者の属性をまとめる。第4節では調査の結果から分かったことを、子どもの教育に対する不安の度合いが高い人の特徴、母親の幼児期の教育が子どもの早期教育に与える影響、母親の早期教育に対する賛否が子どもの早期教育に与える影響の三つに整理して述べる。

第6章では調査の結論をまとめる。第1節では二つの仮説の検証結果を述べる。第2節は、本論文から考えられる、今後の幼児教育業界の方向性について論じる。第3節では本論文は社会的にどのように貢献できるかを論じる。第4節は卒業論文全体を通しての反省点をまとめる。